

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 7 年度第 1 回</p> <p style="text-align: center;">富士見市環境審議会議事録</p>						
日 時	令和 7 年 7 月 1 0 日 (木)		開会	午前 1 0 時 0 0 分		
			閉会	午前 1 1 時 2 0 分		
場 所	市役所本庁舎 市長公室					
出 席 者	委 員	星野弘志 委員	笠原勤 委員	村上正明 委員	前田則義 委員	中村恵美 委員
		○	欠	○	○	○
		柳田政男 委員	齋藤紀子 委員	五十嵐正幸 委員	山口菜乃子 委員	関野美知子 委員
		○	○	欠	○	○
		吉田茂美 委員	玉井晶子 委員	田中聰行 委員	上田忠憲 委員	
		○	○	○	○	
	事 務 局	環境課 櫻井課長、内田副課長、守山主査、新井主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者なし)					
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 諮問</p> <p>(2) 市長あいさつ</p> <p>(3) 富士見市一般廃棄物処理基本計画・第 3 次計画改訂版の策定について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>					

議 事 内 容

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 諮問

星野市長より星野会長へ諮問

(2) 市長あいさつ

(3) 富士見市一般廃棄物処理基本計画・第3次計画改訂版策定について

資料1に基づき、富士見市一般廃棄物処理基本計画・第3次計画改訂版策定に向け、富士見市一般廃棄物処理基本計画・第3次計画の目的、位置付け、内容、一体的に策定する食品ロス削減推進計画、第17回市民意識調査結果について事務局より説明。

《委員からの質問・意見》

質問 なし

意見 会長から各委員に対し、ごみに関する意見を求めた。

〈委員〉・生活排水について、今、家庭の中の水の循環水を作る装置があることを聞いていますが、もしかしたら補助金の対象にもなっていく感じはしますけれど、どう考えたらいいのかなと思いました。それから、食品ロスについては、今一番大きいのは食用の油じゃないかと思います。もう近い将来に航空燃料に一定量のそういう油を使わないといけないという、規則も出ていますので、おそらくこっちの方は早く進んでいくかとは思いますが、その際に食用油を集積する場所がおそらく問題になってくるかと思っています。

〈委員〉・市長から市内の会社の製品で玉ねぎの生ごみを再利用する素晴らしいお話を伺いました。こういう会社が市内にあるということをもっとPRされれば良いと思います。

〈委員〉・自分も富士見市民でもあるのですが、やっぱりその市内を車で走っているとカラス対策で黄色いネットは掛けてあるのですが、カラスが黄色いネット上からつついたりとか、結構荒らされている場所を見たりはします。市民意識調査でも記載されていますが、ちょっといくつか考えていかないといけないのかなと思っています。

〈委員〉・市民意識調査にもありましたが、弊社富士見市内の資源ゴミの収集を行っております業者でありますので、こういった一つ一つ具体例を見ると、対応できるところも結構あるのかなと思いますので、そういった面でも環境課と連携をとりながら、またこの計画策定していく中で、ご協力できるところもあるのかなと感じました。

〈委員〉・家庭生ごみですが、朝、早く出しているところは先ほども言いましたが、網をかけただけじゃ駄目だっていうことは確かです。幸い私の地域は一番最初の8時半にゴミ集積の車が来て、一番に持って行ってくれるのでありがたいのですが、収集が遅いところもあります。その辺は、こういう意識調査を見ると、やっぱりちゃんと考えなきゃいけないというのと、あと集合住宅はちゃんと集積所とかありますが、道

路上の集積所は土地を貸していただくのは難しいところもあると思うのですが、路上にでているとゴミが邪魔で歩道に出ているところもあります。子供たちが通りにくいっていう部分もあるので、できれば集積場をちゃんとしたブロックまではいかななくてもちゃんとしたものがあれば、カラス被害もないのかと、主婦としてはそういうふうな感じを受けます。それとあとさっき玉ねぎなど生ごみ処理する会社ですが、商工会も絡んで食生活改善推進をやっていましたから、行って見学してきました。なかなか処理機が製品化しているけど、市に使われてない、給食とかそういうところには使っているのかもしれないのですが、あまり目にしない印象です。生ごみを処理しても、その使い道がなければ勿体ないと思っています。

〈委員〉・私も富士見市民なのですがごく感じる場所が多いのですが、この意識調査の中で、ゴミ捨てるのマナーが悪いというところで、私も集合住宅に住んでおまして、その何日何曜日が可燃ゴミの日っていうふうになっても、全然違う日に違うものが出ていることを見受けられるのと、可燃ゴミの中に、おそらくこれは可燃ではないものが入っているのが見えるので、例えば私の集合住宅は、ごみボックスがあるので、そこにこのごみ出しパンフレットの一覧が、ごみボックスの開け閉めするところにでも貼ってあれば、再度確認が取れて、意識付けできていいのかなと思いました。バックを捨てる時に金具があるんだけど、可燃ゴミなのか、不燃ゴミなのか、それとも切り離せばいいのかなとか、そういうのも分からなかったのもう少し分かりやすく明確に掲示できたら、適切にゴミ捨てもしていただけるのかなと私自身も感じました。

〈委員〉・先ほど市長が富士見市の1年間のゴミの排出が少ないなど話がありましたが、一つご紹介差し上げたいのが、容器包装プラスチックゴミの件につきましても、令和6年度の結果というものが、容器包装プラスチック協会のホームページに掲載されています。志木市、富士見市、新座市から集められた再生するためのプラスチックゴミを製造業者等の負担で再生利用しています。それを業者に引き渡して、品質のチェックをしています。例えば袋のまま出されていると中に何が入っているか分からないので、それで減点になり、あとプラスチックゴミでないものが混じっているとまたそこで減点になるのですけれども、志木地区衛生組合で集めているゴミは、市民の皆様の分別が大変良くて、県内ではほぼ98%から99%間違いなく出しているというような評価をいただきました。そのまま収集したものを出しているのではなくて、リサイクルプラザのベルトコンベアで流れてくるものを、人の手で分けてやって、一生懸命やらせていただいています。それでもやはり皆さん綺麗なものをいただいているので、2年連続A評価いただいたということをご報告させていただきます。ホームページで見られますので、ちょっとお時間ある時に見ていただけたらなと思います。

〈委員〉・高齢者が増えて、ゴミ当番が負担になっている。本当に関沢は大変ですよ。この間も高齢者で倒れた方がいまして、近所の方がたまたま通って、皆さんに助けてくださいと呼んで来てもらいました。たまたま倒れて起き上がれないから、それヤクルトの人がきて、氷で冷やしたり、それで救急車で運んだのですけども、高齢者が増えると、ゴミの当番が少ない人員で回さなきゃいけないからその問題をどうす

るかを考えなきゃいけないのかなと思います。それと私がいつも見て歩いていると、同じところは大体カラスでやられていますよね。それはネットのかけ方もあるし、黄色いやつを使わないで、まだ昔のやつを使っています。だからその辺は、地域でもうちょっと徹底してないなっていうのが、残念に思うので、私がそこで言うと、また喧嘩になるので言わないですけど、そういうことがね、このゴミのところではすごくありますね。それから、私は環境展も20年近く、実際行っているのですね。あそこ行くと、新しい技術がどんどん増えて、やはり処置の仕方、私は業者とちょっと話したら、やっぱり分別が問題なのだと、分別すればこの機械を使えばもっと再利用できるって言います。ああいうところ行くと、世の中進んでいるので一般家庭にいるとわからないですけども、ああいうところにぜひ機会があれば、毎年やっていますので行っていただければいいですね。私も年齢がもうだいぶ高いのですけど、小学校のときは、このゴミの問題は出てないのですよね。それで最近ではSDGsも含めて学校の教育にね、もっと突っ込んでいくことによって、この計画が、その方が大人になれば、だんだんだんだん浸透して、やっぱりそこから始めなきゃいけないなってそんな意識を持っています。

〈委員〉・ごみの問題はとても難しいなというふうに思っています。フードロスの問題、事業系は推計しやすいのかもしれませんが、家庭のその総数を推計するっていうのは非常に困難で、サンプルで担当の方が分別区別してって、あの量を測って推計するのは非常に大変だと思います。便利になれば便利になるほどゴミは増えるので、しかもそのフードロスは増えるわけですよね。スーパーがたくさんできるとスーパーの品ぞろえが増えて、たくさん売らないとスーパーの利益が出ないので、どんどん商品提供するって形になって、ゴミはなかなか減らないということです。今から15年ぐらい前に山形県長井市が推進しているレインボープランというのがあって、農業の振興とかまち作りの一つの仕組みとしてレインボープランというのをやっているのですが、街中から出る家庭の生ゴミを堆肥化して、地域の水田が多いのですが、水田でその堆肥として再利用するという大変な壮大な仕組みをされているわけですが、今、10数年、20年ぐらいたっているところです。それから先ほどからチラチラいくつかご意見が出されていますけど集積場の問題ですが、私も今から13年前に引っ越してきました、いわゆるたくさんいっぺんに20戸とか住宅ができたところではなくて、パラパラと家が建ったところで一つを購入したものですからゴミをどこに出したらいいかとか、そういうことも何の指示もなく、近所の方にお伺いして、ゴミの集積はここへ出してごみ当番もやって、次々に住宅ができてですね、1年のうち8戸ぐらい増えるし、元の集積場が24戸ぐらいになり、これもう分離するしかないなと町会長さんと相談して分離をしたのですが、分離をすればいいかというやはり先ほど高齢者の方の問題があってですね、やっぱりその高齢者の方ができないっていうことで、ごみ当番の順番を飛ばして変えるみたいなことが起きて、実はちょっといざこざがありましたけど、結構大変なことになったのですが、そんなこともありました。ちなみに私勤務先は豊島区なのですが、豊島区と北区は、高齢化が非常に進んでいる地域が私の職場のところにあるのですが、いよいよ戸別回収に踏み切りました。軽トラックでゴミ収集をして、あっちこっちへ職員の方は4時まで走っ

て1個ずつ取ってくるみたいなことをやっています。ただ、これはこれで問題があって、それぞれのお宅がネットをかぶせているわけではないのでそのゴミがあちこち散乱して問題がいろいろ出てきています。それから公共下水の問題は災害時で、今想定されているいわゆる南海トラフもそうですけど首都圏で直下であるかもしれない。下水がやられてしまうのです。水が止まると、処理できないことになってしまう。それからトイレの問題で、マンホールトイレを活用したらいいのではという話もあって、これはゴミ処理と関係ありませんけど、下水ということも考えなければいけない。ゴミ処理一つとっても、非常に難しい問題山積だなというふうに思っております。

〈委員〉・私はごみ出しとかしてなくて、家族やごみ当番の方がやって、時々ごみが散らかっているくらいで問題ないです。

〈委員〉・私のところは貝塚で本当に高齢者が多い、もう80歳以上の方ばかりで、ごみ当番ができない所は飛ばしてやっていますけど、先ほど皆さん黄色いネットですが、私のところだとまだブルーです。でもカラスにはやられてないのですよね。だからこれは黄色とかブルーじゃなくて、やっぱり出し方で最後に出す人がきちんと中に入れてれば、カラス被害はそんなにない。水谷小の近くで子供たちの見守りしているのですけど、その辺は黄色のネットでも、出し方が悪いのか、すごいカラスが来てすごく散らかっています。だからやっぱり出し方で、必ず中に入れてやればいいのかなどは思っています。集積場所も個人の方の前を借りているので、皆さん綺麗に使用のお願いしているので、そんなに問題はないのです。場所的に公園のところはやられている。カラスが上から見て、そこを集中的にやっているのだと思うのですけど、だから皆さんの意識の問題かなと思うのです。あとやはり高齢者がいるので、本当に班長さんもお当番はできない。でもゴミはもちろん出さなきゃいけないのでその班でもう納得してごみ当番を飛ばしてやっていますので、その点は大丈夫だと思うのですけど、確かに本当に高齢化しています。関沢地区よりうちの方が高齢化しています。

〈会長〉・皆さんにお聞きしたことは、まさにあのその通りで、私はさいたま市に住んでいるのですが、今日初めてこの富士見市のごみパンフレットを見ましたが、なんで今まで富士見市はこんなにゴミの排出量が少ないのかなと思ったのですが、やはりこれを見ると、この分別が相当細かい、さいたま市に比べると、非常に細かくなっていて、特にプラスチックで言えば、PETとかそういうもの以外のその他プラスチックと言われるようなものまで、別々に集めている。さいたま市の場合はこれ全部燃えるゴミの中に入れていきます。それからもう一つこの分別パンフレットのブルーのところの分別が非常に細かくわかれていますよね。一応こういう分別の仕方をしているけれども、一つ一つこういうカゴの中にこう分けたり、あの袋が違う形で入れたりっていうふうにはさいたま市はしていないのでその辺の差があるのかなというふうに思います。ただ一方で、例えばこの分別パンフレットのブルーのところはこんなに細かくですね、ごみカゴとかがあるってことは、その分集積場というのは結構この広さがないと、そもそもこのごみカゴを置いたりするのが大変ですよ。その辺が本当に課題なのかという気がします。カラスの問題はさいたま市の場合は今ほとんどが、折りたたみのカゴみたいなものになっているので、カラスが直接ゴミにくちばしが届かない形になっているのです。それになってからですね、かな

り減ってきています。ただそれはそれを普段どこに置いておくのかとか、それは少しスペースが必要ですので、その辺の課題もあるのかというのが、これを見た感じでございます。先ほどから皆さんからいろんなご意見を出していただいておりますが、本当に重要なポイントがかなりあってですね、一つはやっぱりこの富士見市がこれだけゴミの発生量が少ないっていうのが、一つには市民の皆さんが分別をしたりして、ゴミを排出抑制するのに相当役割を担っている。でも一方で高齢化してくると、そういう手間が非常にかかるので、そこがだんだんできなくなってくる。一方でこの気候変動等で夏は特に過酷になってきますので、その辺の負担も増えてくるということで、この辺をどういうふうにしていくかが一つ大きな課題なのかという感じがいたしました。それからアストロフードシステムの話は、まさに技術ができていろんな活用はできるのですができたものを誰が使うのかっていうのが非常に課題になっています。吉野家さんのところで玉ねぎの粉ができるのですが、実際にそのために行われた例えばあのオニオンブレッドに使ったとかですねそういう事例もあるのですが、オニオンブレッドに使ったぐらいじゃあの、全然利益はないので、いかにそれをみんなが例えば使っていくかっていうのは、例えばふりかけに使うとか何か学校給食で使うとか、何かそういうあの出口と入り口をきちっとやらないと難しいなというところがあります。食品ロスの問題は見ていただくただいぶ減ってきてはいるけれど、事業系はですねいわゆる食品の3分の1ルールがあり、例えば90日の賞味期限だったら30日より過ぎちゃうものは店に置かないとかですねその辺の仕組みもだいぶ少しずつは変わってきていて、あと買うときに前取りとって、賞味期限が長いものをみんな買うのだけど、できる限り前から買っていくとかですね。そういう市民と事業者が連携した形をうまく富士見市の方でモデル的にできれば、もっとこう減らしていけるかという感じがしております。いずれにしても、たくさん課題があるのでその辺に向けてですね、皆さんでいろいろアイデアを出してそれをまとめていくということで今後の作業を進めていきたい。それからもう一つ根底にある学校教育の話がありましたが、これをさらにはこのゴミに対するこういったマナーや気持ちや、そういうの、あの若い人に繋げていかなければいけないので、その辺をやっていくような方向になるかと思いました。今日はとにかくいろんな意見を出していただいて、これを踏まえてですね、次回以降に生かしていただければと思います。他にはございますか。

〈委員〉・最近、うちの町会にはとても外人が多いのですよ。民族衣装を着てまでその町会の中を歩いている。そういう方が多くてやはり空き家になるとそこを貸して、外人を住まわせてフィリピンとかいろんな人を住まわせている。そういう方のゴミ出しは、最初は、貸主が出すからいいですよって言われたけど、最近では外人がみんな出して、すごいいろいろなごみが出ていて置かれているところもあるし、近所の人気がつくと、それをこう仕分けしたりはしていますけど、何しろ多いです。外国人はこれからもっと増えるのではないかな。空家とかも空いているところは50軒以上あるので、要するにそういう空家を買ってそこへ住ませて、それで会社に行かせるっていうようなことをさせているみたいでどんどん増えているのですよ。だからこれからがどんどんまた増えるのではないかとすごく心配しています。

〈会 長〉・それでは以上をもちまして本日の議事は終了とさせていただきます。
その他ということで事務局の方から何かありましたらよろしくお願
いします。

4 その他

〈事務局〉・本市において公道のごみ集積所は4割程度あり、高齢化による当番な
どの問題も本市の特徴です。貝塚が本市においても最も高齢化が進ん
でいる地域で、工夫しながら集積所を管理していただき、行政として
も大変ありがたく思っている。外国人に対しても分別アプリの導入等
で対策をしているところです。第2回審議会は9月9日(火)の予定で
す。

5 閉会